



# みさと

男鹿市立  
美里小学校

R6. 1. 29

## 後期後半がスタートしました

校長 松田 万寿雄

1月15日（月）、20日間の冬休みを終えて子どもたちが元気に登校してきました。静かな学校が、また賑やかになりました。後期後半は、1年生から5年生は46日間、6年生は43日間しかありません。進級、進学した姿をイメージして1日1日を大切に過ごしてほしいと思います。

冬休み前の全校集会で子どもたちに、冬休み明けは「わくわく名人」「にこにこ名人」「のびのび名人」になるために「生活のさしすせそ」と「学びのさしすせそ」でがんばってほしいことを話しました。

【生活のさしすせそ】	【学びのさしすせそ】
⑥ さわやかなあいさつと返事	⑥ さがす…自分なりに問題意識や課題意識をもつ
⑦ しずかな廊下	⑦ しらべる
⑧ すばやい集合（意識や視線も含む）	⑧ すじみち立てて考える（自分の考えを表す方法として身に付ける）
⑨ せっせとおそうじ	⑨ せいりする…たくさんの情報を取捨選択
⑩ そろえた靴だな	⑩ そうかつする…学んだことを振り返り、使えるようにする

残りわずかですが、子どもたちには、この二つの「さ・し・す・せ・そ」で楽しい学校生活を送ってほしいと思います。そして、3月には、子どもたちが、この学校だよりのタイトルにもあるように「⑥ 未来を見つめ ⑦ 支え合い、磨き合い ⑧ 共に高まる美里っ子」として過ごすことができたと自信をもって言えるよう、我々職員も一丸となって子どもたちを励まし、指導、支援していきたいと思っています。

## ☆☆☆美里っ子の活躍☆☆☆

### ◇第6回男鹿潟上南秋児童生徒書き初め展

○銀賞	5年	○○	○○
	6年	○○○○○	
○銅賞	3年	○○	○○、○○ ○○、○○ ○○、○○ ○○
		○○	○○、○○ ○○、○○ ○○
	4年	○○	○、○○○○○
	5年	○○	○○、○○ ○、○○ ○○、○○ ○○
	6年	○○	○○、○○ ○○

### ◇第69回読書感想文男鹿潟上南秋コンクール

【課題図書の一部】	佳作	5年	○○	○
【自由図書の一部】	佳作	5年	○○	○○ 5年 ○○ ○○



### 各種コンクール表彰式

1月17日に久しぶりに全校が集会ホールに集まりました。「美里っ子の活躍」で紹介した子どもたちのがんばりをみんなで讃え合いました。学習の成果を十分に発揮することができました。



### 1・2年生 雪遊び

ペガサスの丘に待望の雪が積もった日、1・2年生が体育の時間にペガサスの丘でそりを使って雪遊びをしました。より遠くまで滑ることができるようがんばりました。



### 縦割り班 長縄とび練習

1月31日のなわとび大会に向けて、縦割り班ごとに長縄とびの練習をしています。練習は週2回で業間運動の時間に行っています。低学年は、それ以外の日や昼休みなどでも練習に励み、見違えるように上達しました。

## グローブお披露目会

美里小学校にもメジャーリーガーの大谷翔平選手からグローブ（いわゆる、大谷グローブ）が届きました。大谷選手から贈られたグローブを6年生の代表児童3人が紹介してくれました。紹介後は、実際にグローブを使ってキャッチボールを披露しました。今後、このグローブをみんなで仲良く使っていきます。



◇6年代表児童でキャッチボールの披露



◇大谷翔平選手から贈られたグローブ

学校関係者各位

貴校ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。

ロサンゼルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。

この手紙は、このたび私が学校に通う子供たちが野球に興味を持ってもらうために立ち上げたプログラムをご紹介しますためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の生徒たちに伝えていただければ幸いです。

この機会に、グローブの寄贈をさせていただけることに感謝いたします。貴校の益々のご発展をお祈り申し上げます。

野球しようぜ。

大谷翔平

◇大谷翔平選手からのメッセージ

## 「知災」と「備災」

新年早々に大きな地震、飛行機事故がありました。特に能登半島地震は、テレビ等のマスコミ報道で被害状況や避難所の様子などが連日映し出され、見るたびに、過去の大震災も思い出され、本当に心が痛くなるばかりです。今回の地震では、男鹿市も震度3の揺れ、沿岸部の津波注意報、そして避難勧告等々が伝えられ、心配な時間を過ごすこととなりました。被災した各県の方々には、1日も早い復旧を祈るばかりです。改めて、被災した地域の方々へ心からお見舞い申し上げます。

今回の震災を教訓にし、家庭と学校、地域が連携して、今一度防災意識を高めていく必要があると感じているところです。先日、ある雑誌の記事で目に留まった言葉がありました。それは「知災」と「備災」という言葉です。「知災」は、災害の歴史を知る、あるいは自分の住む地域を知るという意味です。「備災」は、災害を避けようのない現実として捉えて、しっかりと備える力、いわば心構えを意味します。災害について正しく知り、しっかりと備えることが、防災意識を高めることなのだと思います。本校においても、様々な状況を想定して避難訓練を実施しています。先に挙げた「知災」と「備災」を意識して避難訓練を含めた防災学習に取り組む必要があると感じました。



1/25に実施した避難訓練の様子から